

SOCIAL コロナで失業率、廃業増加 困ったら支援の活用を

12月3日、大阪府の新型コロナウイルスの警戒信号が赤に点灯し、非常事態の対応が取られた。ウイルスが活動的になる冬以降も、厳しい状態が続くと思われる。全国的に経済活動が停滞し、退職や廃業を余儀なくされる人も少なくない。収入源が途絶えた場合、国や自治体の支援策があるので改めて確認したい。

今年に入ってから完全失業者数は全国的に増加傾向にある。総務省の調査によると、近畿では1月に2.4%だったのが3月以降はほぼ3%を超え、10月時点で3.3%（約36万人）となっている。また、同期間の有効求人倍率は全国的に減少の一途をたどり、大阪では10月時点で今年最低となる1.1倍となった。昨年度の大阪の月平均1.74倍と比べ今年度は10月までの月平均1.22倍となり0.52ポイント減少している。また12月16日時点の帝国データバンクによる調査では、新型コロナウイルス関連倒産は全国で808件、大阪は東京に次いで2番目に多い76件。求職者にとって厳しい状況が続いている。

失業者への支援として、春以降に施行されてから現在も継続中である「住宅確保給付金」は、主たる生計維持者が離職・廃業後2年以内である場合などに利用できる制度で、家賃額が原則3か月間支給される。支給額の上限は市町村ごと

に異なり、希望者は各自治体の直営または委託で運営している生活困窮者自立相談支援機関などに申請する。

また、府ではコロナによる離職などで住居を退去する人に向けて、府営住宅を一時的に提供している。国では住宅ローン減税の入居期限要件を満たせない人が、代わりの要件を満たすことで同様の減税措置が適用される弾力化措置も講じている。

ほかにも府では、緊急かつ一時的な生計維持のための貸付を必要とする世帯には、原則10万円以内を貸し付ける「緊急小口資金」、コロナによる収入の減少や失業などで日常生活の維持が困難となっている世帯に月20万円以内を貸し付ける「総合支援資金」もある（ともに無利子、保証人なしも可）。期間や条件など、詳細は各窓口にお問い合わせを。

【相談窓口】

住宅確保給付金
各自治体の自立相談支援機関
府営住宅の一時利用
大阪府住宅まちづくり部住宅経営室経営管理課
緊急小口資金・総合支援資金
各自治体の社会福祉協議会
大阪府社会福祉協議会 ほか
住宅ローン減税の弾力化措置
国土交通省

CULTURE 鳥飼仁和寺大橋 来年度末まで 自転車通行料10円が無料に

大阪府道路公社は、淀川にかかり摂津市鳥飼中と寝屋川市仁和寺本町を結ぶ有料道路「鳥飼仁和寺大橋」の自転車通行料について、無料化を決定した。期間は令和2年12月1日から令和4年3月31日まで。

新型コロナウイルス感染症の影響で求められている「新しい生活様式」において、国は通勤・通学時に自転車の利用を推奨している。同橋において自転車での利用は

1日あたり約800台。同公社は自転車を市民生活になくてはならないものと考え、軽車両の通行料10円のうち自転車のみ企画割引として無料化を決めた。

同橋のほかの通行料は自動車100円、車両総重量8トン以上の普通貨物自動車など大型車170円、4車軸以上の普通貨物自動車など380円、歩行者無料。自動車は引き続き有料としている。

CULTURE 愛猫が叶えた画家の夢 鉛筆画家・西方さん初の画集出版

「鉛筆で猫を描いています」というコメントとともに4枚の絵がツイッターに投稿された。まるで写真のような精密な絵が反響を呼び、6千件を超えるリツイートを記録、現在もその件数は増え続けている。

投稿したのは伊丹市在住の鉛筆画家・西方由美さん。今は亡き愛猫、「タラコ」と「クロ」が画家への道を大きく拓いた。

子どもの頃から描くのが好きだったという西方さん。イラストレーターを目指してデザインの専門学校に入学した。しかし当時は描きたいものが見つからず1年で中退、絵とは関係のない仕事についた。

転職が訪れたのは、2017年のこと。部屋の掃除をしていたときにたまたま学生の頃に使っていた画材が出てきた。1年前、

約20年一緒に過ごした愛猫タラコを亡くしたばかりだった。寂しさを紛らすように画用紙に鉛筆で生前の姿を描いた。

それから、近所の猫や保護猫カフェの猫を写真に撮って描くように。ぽつぽつと描いてはツイッターに投稿していた。

話題になったのが、2020年5月25日にツイッターに投稿した作品。防寒用の服を着た愛猫クロ、神社の土産物売り場で昼寝する猫など精密に描かれた愛らしい姿が多く反響を呼んだ。「生き生きとして動き出しそう」「うちの猫も描いてほしい」など200件を超えるコメントが寄せられた。

絵はすべて鉛筆とシャープペンシルで描く。鉛筆は2H～10Bを使い分け、細部

SOCIAL 吹田市社会福祉協議会施設連絡会ら 学生に食料支援

吹田市社会福祉協議会施設連絡会と吹田市社会福祉協議会が12月、新型コロナウイルス感染症の影響で生活に困っている学生に向けた支援を行った。第1回目は10月初旬、第2回目は12月中旬に行い、いずれも定員50人を上回る申し込みがあった。

今回の支援は、連日のコロナ報道で学生も困っていることを知った施設連絡会会員から声が上がったことをきっかけに決定した。同会では以前から生活困窮者に向けた支援に取り組んでいる。第1回目は主に市内5カ所の大学生・大学院生に向けて約3日間の食料を配布。大阪よどがわ市民生活協同組合の寄付金で購入したレトルトカレーやパックごはん、缶詰や

インスタントラーメンのほか、会員施設からの寄付で集まった災害用備蓄食などを配布した。インターネットによる申し込みで、受付の際にアンケートも実施したところ、「生活費を切り詰めるために食費を削っていたので助かった」など好評だったという。第2回目は市内専門学校2校にも案内。前回より反響が大きく、最終的に83人の申し込みがあった。

担当者は「『学費が厳しい』『アルバイトが減ってしまった』といった声も届いています。生活の困りごとについては以前から窓口を設けていますが、学生さんはなかなか相談に来づらいと思います。これをきっかけに、生活に関する相談ができることを知ってもらえれば」と話した。

SOCIAL 箕面の会社と阪大発ベンチャーが 「実生ゆず」で安全安心な消毒スプレーを開発

実生ゆずを使ったスキンケア商品開発・販売やケアサロンを手掛ける箕面市の「re・make」（リメイク）が12月、大阪大学発のベンチャー企業と共同で実生ゆずの成分を抽出した消毒液の開発に成功した。1月から実店舗での販売を予定している。

接ぎ木で育った一般的なゆずと違い、実生ゆずは種から育った希少な原種で香り高く大粒の高級品。しかし有数の産地である箕面では、管理する農家の高齢化が進み一時期放置されていた。手入れされない実生ゆずは実をつけなくなるため、箕面から姿を消す可能性も。「このままではいけない」と同社の社長・岡山栄子さんは、果皮を利用した商品開発を開始。これまでにアロマオイルやスキンケア商品などを手掛け、自社製品を用いたサロンも運営している。

コロナ禍を受けて、以前からやりとりのあった大阪大学バイオベンチャーの医学博士から声がかかり開発が決まった。特殊な方法で、果皮のワタから抗酸化作用や殺菌力といった有効成分を効果的に取り

出すことに成功。コロナウイルスと、ノロウイルスの試験ウイルスである「ネコカリシ」両方において、希釈した試験薬で99%以上の感染阻害効果を発揮した。「飲食店の方は、コロナだけでなくノロウイルスにも神経を遣います。消毒のためコロナにはアルコール、ノロには次亜塩素酸を使い分けるのですが、これはどちらにも効果があります」と岡山さん。また、天然成分なので肌へのうるおい成分もあり、リラクゼーション効果のおまけも。完全無農薬なので、小さい子どもから高齢者まで安心して使える。

30mlスプレーボトル980円（来春発売）。今は量り売りで北摂内取り扱い店舗の募集を検討中だ。



スプレー以外に、500mlの詰め替えボトル3,800円も。

有限会社 re・make
箕面市牧落3-4-20
info@yuragi.co.jp



(左)防寒着姿のクロ
(上・下)ツイッターに投稿して話題になった絵など。

現在一緒に暮らすチャビの絵を手にする西方さん。

は細さ0.3mmを使う。毛を一本一本描く作業は集中力が必要なため1日4～5時間ほどで精一杯。A4サイズの作品は30時間ほどかけて仕上げる。

11月には初の画集『タラコ・保護猫・地域猫』（金木犀舎）を出版。38枚の作品をモデルにした猫たちとのエピソードを添

えて紹介している。猫の鉛筆画の描き方の解説も収録。売上の一部は、猫の殺処分ゼロを目指して活動する団体に寄付される。

西方さんは「絵を描いて生きていきたいという夢をタラコとクロが叶えてくれた。猫と人が一緒に幸せになれるような関係がもっともっと増えたら」と願っている。